

第15回地域公共交通会議兼第1回地域公共交通活性化協議会

議事録

会議録署名人 岡村 悦子

- 1 開催年月日：令和4年11月11日（金）
- 2 会議時刻：10時00分から
- 3 会議場所：北谷町役場 1階 レセプションホール
- 4 出席委員
 - (1) 仲松 明 副町長 ※会長
 - (2) 金城 勇 内閣府沖縄総合事務局運輸部陸上交通課課長補佐※代理出席
 - (3) 村上 隼 内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長
 - (4) 大城 元秀 内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所副所長
 - (5) 山根 博文 沖縄県中部土木事務所技術総括
 - (6) 比嘉 暁 沖縄県沖縄警察署交通対策課長
 - (7) 名嘉山 敬雄 沖縄バス株式会社運輸部業務課長
 - (8) 大岡 純士 株式会社琉球バス交通取締役部長※代理出席
 - (9) 棚原 靖裕 沖縄交通事業協同組合常務取締役※代理出席
 - (10) 慶田 佳春 一般社団法人沖縄県バス協会専務理事
 - (11) 津波古 修 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会事務局長
 - (12) 佐久川 政徳 北谷町老人クラブ連合会副会長
 - (13) 屋比久 里美 北谷町観光協会会長
 - (14) 徳田 伝 北谷町北前区自治会長
 - (15) 岡村 悦子 北谷町美浜区自治会長
 - (16) 比嘉 学 沖縄県企画部交通政策課公共交通推進室長※代理出席
- 5 欠席委員
 - (1) 神谷 大介 琉球大学工学部工学科准教授
 - (2) 喜屋武 悟 私鉄沖縄県労働組合連合会執行委員長
 - (3) 仲宗根 仁志 北谷町自治会長連絡協議会会長
 - (4) 米須 義明 北谷町商工会会長

6 事務局

(1) 北谷町役場

- ①花城 可津人 企画財政課長
- ②屋嘉 大智 企画財政課主事

(2) ランドブレイン株式会社

- ①石村 壽浩
- ②瀬戸 慎一
- ③井口 賢人
- ④宮城 勇大

7 説明又は意見を求めるために出席した者：なし

8 傍聴人：1名

9 協議事項

- (1) 地域公共交通の現状の把握及び整理について
- (2) 北谷町コミュニティバスの利用状況等の整理・分析について
- (3) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価の策定スケジュールについて
- (4) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価に係る町民等意向把握調査について

10 会議資料

- (1) 北谷町地域公共交通会議委員名簿
- (2) 北谷町地域公共交通会議要綱
- (3) 北谷町地域公共交通活性化協議会委員名簿
- (4) 北谷町地域公共交通活性化協議会規約
- (5) 地域公共交通の現状の把握及び整理【資料1】
- (6) 北谷町コミュニティバスの利用状況等の整理・分析【資料2】
- (7) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価の策定スケジュール(案)【資料3】
- (8) 町民等の意向把握調査概要(案)【資料4】
- (9) 北谷町公共交通に関する町民アンケート調査票(案)【資料4-1】
- (10) 民生委員・児童委員アンケート調査票(案)【資料4-2】
- (11) 高校生アンケート調査票(案)【資料4-3】

- (12) 交通事業者・関係団体等アンケート調査票（案）【資料4-4】
- (13) 北谷町コミュニティバス登録者アンケート調査票（案）【資料4-5】
- (14) 観光客アンケート調査票【資料4-6】

11 会議内容

～公開～	
次第2 会長あいさつ	
事務局	それでは次第の2会長あいさつです。仲松会長よろしくお願ひいたします。
会長	<p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>北谷町では平成29年にコミュニティバスの実証実験を開始しました。その数か月後より、国土交通省、経済産業省、警察庁の協力のもと、西海岸エリアにて自動走行の実証実験も開始しています。自動走行の実証実験は補助金を活用し、2025年にはレベル4の達成を目標に、地域の交通に溶け込んでいけるように取り組みを進めています。</p> <p>これまでコミュニティバスの実証実験を通して、今回お集まりいただいた委員とは議論を重ねてきました。また、議会においても町民理解を得るため、皆様よりいただいたご意見を議会でもお伝えしております。例えば、コミュニティバスに関して、「高齢者が買い物利用時に自宅まで重い荷物を持たないで済むように、ドア・ツー・ドアにできないか」などのご意見もいただいています。こちらのご意見に関しては、これまでの委員会でも、既存の交通機関に影響を及ぼさないように、と議論があり、それぞれの役割があることを認識しております。北谷町の福祉部局でも、交通空白地が生じないように、バス停間を200m以内になるようにバス停を設置しており、健康面も考慮してなるべく高齢者には歩いていただいた方が良くしております。</p> <p>また、町民や交通事業者からアンケートにてご意見をいただきながら、少子高齢化が進展する中でまちづくりにおいて交通政策は重要であると認識しています。残念ながら、北谷町には交通課はないですが、企画財政課がコミュニティバスの実証実験を含めて取り組みを進めています。</p> <p>これまでの検討を経て、全ての町民に既存の交通手段であるバスやタクシーのサービスが行き届くことは不可能であると感じています。先ほど、紹介した自宅までのラストワンマイルは、公民館から自宅は小規模な交通手段を活用することも今後はあり得るかとは思いますが。そのような取組で北谷町が一翼を担うことができると感じています。</p> <p>今回は2種類の協議体があります。昨年、北谷町内での交通網形成を検討した「北谷町地域公共交通網形成計画（案）」を作成しました。パブリックコメント以前に法改正があり、新しい協議体で審議する必要が生じました。また、地域公共交通計画では民間事業者や各団体が保有している交通資源も十分活用することとなっており、公共交通網形成計画に事業者の参画の度合を色濃くした内容になるかと思えます。</p> <p>本日の委員会では、検討材料を揃えるためのアンケート内容などについてもご審議いただきます。本日は最後まで皆様の忌憚のないご意見を頂</p>

	ければと思います。よろしくお願いいたします。
次第3 協議事項(1) 地域公共交通の現状の把握及び整理について	
事務局	「地域公共交通の現状の把握及び整理(資料1)」について説明した。
委員	資料1の27頁について、都市計画マスタープランは策定中であるとご説明いただいたが、今年度策定予定か。
事務局	今年度策定予定である。
委員	まちづくりとして都市計画マスタープランの内容も含め、交通政策を進める必要がある。
事務局	都市計画マスタープランも含めて検討する。
会長	委員より、都市計画マスタープラン計画はいつ見直しを実施予定か、との質問があった。 都市計画マスタープランは平面的なまちづくり形成を誘導する計画であるため、人流に関しては交通施策と連動して本計画を策定する必要がある。
委員	資料1の15頁について、交通空白地を「バス停より半径200m以遠」との記載があるが、道路運送法ではそもそもバス路線がなく、タクシーも来ない場所を交通空白地帯と呼ぶ。県内では国頭村の一部地域などの限られた地域が該当する。質問ではなく情報提供である。
事務局	栄口町東側などは急斜面地といった悪条件もあり、町での交通空白地を「バス停より半径200m以遠」と設定している。 道路運送法などの関係法令や基準などを理解した上で交通施策を進める。
委員	提示いただいた資料では現状を整理いただいたが、どのようなことが課題なのかわからない。 公共交通を充実したいのか、確保維持を目指すのか。
事務局	令和元年度に取りまとめた57頁記載の「北谷町地域公共交通網形成計画(案)」にて課題を7点整理した。 ①公共交通空白地域への対応、②利用者の利便性向上と行政負担額の低減を追及した北谷町コミュニティバスの再編、③交通弱者の移動ニーズへの対応、④交通結節点の機能強化、⑤観光客の回遊性を支援する足の確保(ストレスフリーな移動環境)、⑥町民・観光客に分りにくい運行情報の改善や利用促進に向けた町民意識の醸成、⑦多様な主体の連携による持続可能性の確保 本計画策定において、「北谷町地域公共交通網形成計画(案)」での課題やアンケートでのご意見も参考に再整理することで課題を抽出し、それに対応する施策を検討したい。
会長	町内でも少子高齢化が進展している。また、観光客は運転免許証が無くても町内移動ができ、町民は健康を維持し、高齢者も外出しやすいようにしたい。 今後、交通事業者との連携も踏まえてどのように交通政策を進めるべきかを検討したい。
協議事項(2) 北谷町コミュニティバスの利用状況等の整理・分析について	
会長	(2) 北谷町コミュニティバスの利用状況等の整理・分析について、事務局説明をお願いします。
事務局	「北谷町コミュニティバスの利用状況等の整理・分析について(資料

	2) 」について説明した。
委員	資料2の7頁について、委託料が増加したとご説明いただいたが、運行台数の変化はあったのか。
事務局	運行台数の変更はない。
委員	他にはどのような変更点があったのか。
事務局	定期路線型では運行事業者への委託料のみであったが、デマンド運行に変更したため、予約のための配車受付、予約受付について委託費などが増加した。
委員	公共交通機関を利用していない方の多くは自家用車で移動していると思うが、その役割分担をどのように想定しているのか。 また、自家用車利用から公共交通機関利用への転換までを促進するのか。
事務局	デマンド運行に関する課題として、新型コロナウイルス感染症の感染状況も収まってきている状況から外出機会も増え、Cバスの予約が埋まってしまい利用できない方が発生しており、改善したい。 併せて、既存の路線バスとタクシーも含めて役割分担を整理する必要がある。 県内全体的に自家用車利用率が高いことは承知しており、町内でも自家用車利用から公共交通機関利用への転換を促進する。
会長	平成29年のCバス導入時にアンケートを実施した際は7割の方が「自家用車を利用しているためCバスは利用しない」と回答された。 沖縄県では米軍占領以降、モータリゼーション普及の影響が大きく、今では生活の基盤となっている。 沖縄県で進められている鉄軌道の導入について、近い将来での導入を想定し、積極的に町として関わっていく考えである。それを見越して、町内でのフィーダー交通も完成させたい。 また、市町村によっては地域公共交通会議を設置していないなど、市町村により取組度は異なるが、中部圏域での広域連携も視野に含め、北谷町としては、先進的に取り組みを進めたい。
委員	本会議には初めて参加する。 資料2の2頁について、登録者以外がCバスを利用することは可能か。
事務局	町民の登録は必須としているが、町外の方の登録は必須ではない。観光客などの町外の方は登録をせずに利用可能である。
委員	登録地区外とはどのような区分か。
事務局	観光客を含めた町外の方の利用者である。
委員	定期路線型からデマンド運行の変更により事前予約が必要となったが、所属自治会でできるのか。
事務局	予約受付センターでの電話予約が可能である。
委員	Cバスの利用方法に関する周知が足りていないのではないかと。 また、運行台数は2台で足りるのか。効率的に運行できているのか。
事務局	平日の稼働率は100%であり、デマンド運行への移行後は30分間隔で予約を受け付けている。 新規利用者の予約を受け付けられるように改善したい。
委員	資料2の7、8頁について、相乗り率を向上させることが収支率を改善することにつながるのではないかと。

事務局	相乗り率が向上できるように改善方法を検討する。
委員	資料1の7頁と資料2の13頁について、収支率の数値が異なる。
事務局	収支率の数値を確認し、修正する。
委員	平日の稼働率は100%とご説明いただいたが、全時間帯で1人でも乗車すると稼働率は100%となるのか。そうであれば、乗り合いバスとしては機能しておらずタクシー利用となっている。Cバスの意義としてどうなのか。
会長	1人乗り状態が半数近いことは課題である。
委員	資料2の3頁について、「北前地区のみ利用率30%を下回っていることから、比較的用户が固定されていることがうかがえる」と記載があるが、この説明文では固定化までは言及できないのではないかと。また、過年度結果の変化がないことからユーザーが固定されていると思うが、「30%を下回っている」ことがユーザーの固定を表しているとは思わない。
事務局	記載表現を修正する。
会長	こちらの記載表現については、過年度データを確認し、修正する。先ほどの委員の意見に関連するが、ユーザー属性や利用状況を把握するため、町民にはユーザー登録をしていただいております、実証運行の改善に役立っている。
協議事項(3) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価の策定スケジュールについて	
会長	(3) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価の策定スケジュールについて、事務局説明をお願いします。
事務局	「北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価の策定スケジュール(案)(資料3)」説明した。
委員	これまでは市町村内の交通課題について限定して検討を進めてきたが、今後は北谷町と隣接する市町村との広域的な連携を見据えた計画策定を進めていただきたい。
事務局	スケジュールはタイトな状況である。本計画に広域的な視点を含めることは必要だと理解しているが、町内での交通政策を重点的に検討し、将来的な見直しの際などに、広域化について検討を深めたい。
会長	「北谷町地域公共交通網形成計画(案)」作成時には、観光やまちづくりの視点も含めて検討した。本計画でも内容の更新など充実化を図る。併せて、関係機関とのネットワークづくりも含めて検討したい。
協議事項(4) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価に係る町民等意向把握調査について	
会長	(4) 北谷町地域公共交通計画及び北谷町コミュニティバス実証運行評価に係る町民等意向把握調査について、事務局説明をお願いします。
事務局	「町民等の意向把握調査概要(案)(資料4)」「北谷町公共交通に関する町民アンケート調査票(案)(資料4-1)」「民生委員・児童委員アンケート調査票(案)(資料4-2)」「高校生アンケート調査票(案)(資料4-3)」「交通事業者・関係団体等アンケート調査票(案)(資料4-4)」「北谷町コミュニティバス登録者アンケート調査票(案)(資料4-5)」「観光客アンケート調査票(資料4-6)」説明。

委員	すでに実施したアンケートはあるのか。
事務局	観光客アンケートは実査完了しており、宿泊施設でのアンケートは今週中に開始予定である。
委員	「ザ・ビーチタワー沖縄」は対象に入っていないのか。町内ホテルでは大きい施設になると思うが。
事務局	過年度調査にて調査依頼を断られた経緯から、今回は対象外としている。
委員	稼働率は100%だが、利用者数は増加していない現状がある。 資料4-1の8頁について、問20の設問は具体的な内容にしてはどうか。相乗り率を向上させないと収支率が改善されない状況を示してはどうか。例えば、「1人乗りは困ります」「2人乗りでもいいですか」などの具体的に示す必要があるのではないか。デマンド運行を継続するためには、稼働率100%にプラスして、相乗り率を向上しないと継続は難しい。 また、Cバスの利用方法に関して、民生委員、老人クラブに対して周知はしたのか。
事務局	実施した。
委員	佐久川委員は老人クラブ副会長だが、登録利用方法をご存じなかった。自治会では登録利用方法について周知をしている。本来、ご利用いただきたい高齢者に対して、周知が徹底されていないのではないか。町老連に出向いて周知することが必要なのではないか。
事務局	アンケート設問内容について、委員会での決済を経て実施することはスケジュール的に難しいため、設問内容は事務局にご一任いただき、次回委員会にて内容を報告させていただきたい。
委員	承知した。
事務局	町民と老人クラブでの周知をする。
会長	北谷町内には交通弱者が6,000人程度いる。さらに周知をしていただきたい。 Cバスはまちづくりや観光周遊など様々な側面で貢献している。経費額は大きくは減ることはないと考えられるため、交通事業者と協力しながら対策を検討したい。
委員	北谷町美浜公共駐車場に公共施設を建設することは検討されているのか。
会長	北谷町美浜公共駐車場から公共交通機関に乗り換えることができると考えている。
事務局	北谷町美浜公共駐車場を交通結節点として公共交通機関への接続を構想している。
会長	北谷町美浜公共駐車場が設置されるまでは北谷町は素通りされてしまう地域だったため、駐車場を整備することにより立ち寄る機会を創出する目的があった。北谷町美浜公共駐車場があることにより、近隣の商業施設では駐車場を整備する必要がなく、店舗など他のことに資金を投入できる。事業者からは分担金をいただいている。 北谷町を歩いて楽しめるようにとの考えのもと、資料1の29頁に記載している「北谷町西海岸地域サンセットビューライン構想」、「美浜駐車場の戦略的活用構想」にて検討した。
委員	計画の目標はどのようなものを考えているか。

事務局	「北谷町地域公共交通網形成計画（案）」を前提に再整理する。
委員	資料2の1頁について、満足度は相対的に高いとの評価が出ているが、満足度だけでは計れない。
事務局	整理分析を行い、沖縄総合事務局、県関係課とも連携し、計画策定を進める。
会長	ご審議ありがとうございました。 これで第15回地域公共交通会議兼第1回地域公共交通活性化協議会を締めたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

【会議風景】

